



伊賀市地域公共交通活性化再生協議会会長
和歌山大学経済学部教授 辻本 勝久さん

伊賀市地域公共交通活性化再生協議会では、バスや鉄道などの公共交通手段が地域にふさわしいものになるように、新たに「伊賀市地域公共交通計画」の策定を進めています。市民、公共交通事業者、行政が「一丸となって「市民の暮らし」に寄りそう公共交通の姿を目標として議論を重ねてきました。

今回は、広報いが10月号に続き、現在パブリックコメントを募集している計画案の詳しい内容をお知らせします。

はじめに、協議会で会長を務める和歌山大学の辻本勝久教授の新しい計画に関するお話を紹介します。

6年後、伊賀市の公共交通は地域の宝物になっているか？

～みんなで磨きあげ 使って 支える 伊賀市の公共交通～

●私たちの生活の質を支える 交通ネットワーク

使いやすい交通手段があると、買い物や通院が便利になったり、遠方の学校に通いやすくなったり、通勤できたり、観光しやすくなったり、帰省が楽になったりします。

私たちの「生活の質（暮らしやすさ）」は、交通ネットワークによって支えられているのです。暮らしやすい地域には人々の笑顔があふれ、活気も生まれます。人も地域も輝く伊賀市づくりの力を握っているのが交通なのです。

●公共交通の強みと弱点

交通手段のひとつである公共交通には、いろいろな長所があります。

たとえば、公共交通は運賃を払えば誰でも乗ることができます。乗車時間を有効に使うことができます。環境に優しい、駅やバス停まで歩けば健康にもいい、特に鉄道は時間通りに走る、景色をゆっくり楽しめるといった点も、公共交通の長所です。

こういった長所は、しっかりと伸ばし、もっと活用しなければなりません。

一方で公共交通には弱点もあります。路線やダイヤの制約がある、乗り継ぎ経路などを調べるのが面倒だ、一部の駅に段差などのバリアがある、などです。

こういった弱点は、ひとつひとつ改善していかなければなりません。

●長所を活かし弱点を改善する計画

公共交通の長所を暮らしの向上や地域づくりに活かしつつ、弱点を改善していくための計画が「伊賀市地域公共交通計画」です。この計画の基本理念は、「暮らしに寄り添い、ひと・地域が輝くネットワークづくり」みんなで磨きあげ使って支える伊賀市の地域公共交通です。そのもとで、「都市部への通勤・通学環境の充実」「路線・乗換案内の充実」などの目標を立て、20以上の事業を精力的に展開していくこととしています。

●使わないと朽ち果てる

基本理念の中に、「みんなで磨きあげ 使って 支える」とあります。これは、9万人の市民と、行政、交通事業者など、みんなが関心を寄せ、有効活用することを通じて、公共交通を維持していくことという意味です。棚にしまいい込まれた銀食器が錆び付くように、公共交通も時々気にかけて、使ってやらないと朽ち果ててしまいます。

この計画が最終年度を迎えるのは6年後です。その時、伊賀市の公共交通は、市民の暮らしにしっかりと寄り添う、地域の大切な宝物になっていないかならなりません。そのためにも伊賀市の公共交通を市民はじめ関係者みんなで磨き上げ、有効活用し、支え続けていくことが大事です。どうか市民のみなさまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

(辻本勝久さん)

公共交通計画策定中!

- ◆ 計画の名称 「伊賀市地域公共交通計画」
- ◆ 計画の期間 令和3年度から令和8年度までの6年間
- ◆ 基本理念 暮らしに寄り添い ひと・地域が輝く ネットワークづくり
～みんなで磨きあげ 使って 支える 伊賀市の地域公共交通～

◆ 基本方針と目標

計画では基本理念をふまえ、3つの基本方針と11の目標を示しています。

基本方針1：市民・利用者の生活の質を高める地域公共交通ネットワークの形成

- 目標① 公共交通軸の伊賀鉄道の利用者の増加
- 目標② 公共交通軸・補完的交通のバスの利用者数の維持
- 目標③ まちの拠点と居住地を結ぶ公共交通ネットワークの構築
- 目標④ 都市部への通勤・通学環境の充実による市外への転出者数の抑制

基本方針2：誰もが利用しやすく、使いたくなるような地域公共交通サービスの充実

- 目標⑤ 利用しやすさの向上に向けた路線・乗換案内の充実
- 目標⑥ 乗り継ぎしやすさの向上に向けた乗継利便の充実
- 目標⑦ 地域公共交通を利用したお出かけの増加

基本方針3：一緒に考え、次世代へつないでいく持続可能な仕組みづくり

- 目標⑧ 地域公共交通に対する市民の参画度の向上
- 目標⑨ 地域公共交通に対する市民の満足度の向上
- 目標⑩ 市民の地域公共交通の利用割合の増加
- 目標⑪ 地域公共交通がもたらすクロスセクター効果*の維持

*クロスセクター効果について、詳しくは9ページをご覧ください。

それぞれの目標は計画の達成水準をわかりやすくイメージするため、数値を使って設定しています。

例) **目標④：都市部への通勤・通学環境の充実による市外への転出者数の抑制**

- 市外への流出が多い若者世代が、市内に住み続けながら都市部へ通勤・通学できる環境となっているかを評価します。
- 平成27年からの5年間での15～39歳までの転出者数は、年平均2,370人となっており、平成28年度以降は増加傾向となっています。都市部への通勤・通学環境の充実により、転出傾向を抑制し、5年間の中で最も転出者数が少ない平成28年度の2,270人/年を下回る、2,200人/年をめざします。

市外への転出者数	現況値 (最新の5年間の平均) 2,370人/年	▶▶▶	目標値 (計画期間各年) 2,200人/年
----------	--------------------------------	-----	-----------------------------



◆事業内容・事業主体

目標達成のために、24の事業があります。一つひとつの事業には、
 だれがいつまでに・何を実施するのか決めています。
 ここでは、主な事業を紹介します。

事業5 地域の実情に応じた交通手段の検討

現在市内のバスは、決まった時間に決まったルートを走る「定時定路線型」が基本となっていますが、今後は地域の実情に応じて、デマンド運行*などの導入について調査・検討していきます。

*デマンド運行とは、利用者からの予約（需要）に応じて出発点と目的地を最短ルートで結ぶなど、柔軟に運行する形態です。

<事業主体>

市民・地域	伊賀市	鉄道事業者	バス事業者	タクシー事業者	企業等関係団体
○	○		○	○	○



事業10 乗り継ぎしやすいダイヤ設定と周知

伊賀神戸駅での伊賀鉄道と近鉄大阪線の乗り継ぎと、伊賀上野駅での伊賀鉄道とJR関西本線の乗り継ぎは、一部の時間帯では、単線であることなどを理由に利用者ニーズに応えられていません。そのため、乗務員などからの定期的な情報収集や利用者調査などを行い、具体的な乗り換え要望を確認し、乗り継ぎしやすいダイヤへ修正を図っていきます。また、乗り継ぎ時刻表を作成するなど、乗り継ぎのしやすさの周知を図っていきます。

<事業主体>

市民・地域	伊賀市	鉄道事業者	バス事業者	タクシー事業者	企業等関係団体
	○	○	○		



事業11 施設と連携したバス待合環境乗り継ぎ改善

バス停が近くにある公共施設、医療施設、商業施設、鉄道駅などの施設内に、公共交通の路線図や時刻表などを掲示するとともに、施設内でバスの到着が確認できるようにするなど、施設と連携した待合環境の改善を図ります。また、施設出入口近くへのバス停配置に努めます。

<事業主体>

市民・地域	伊賀市	鉄道事業者	バス事業者	タクシー事業者	企業等関係団体
○	○	○	○		○



事業21 高校生の通学交通を対象としたモビリティマネジメント*の展開

伊賀鉄道の主要な利用者は高校生ですが、通学定期の利用者は年々減少しています。中には自家用車の送迎で高校に通う人もいます。

そこで、市内の高校に通学する生徒や、中学3年生を対象に、時刻表や路線図、公共交通のメリットを伝えるチラシを配布するなど高校生の通学の公共交通利用促進に取り組みます。

また、各学校と連携し、公共交通を盛り上げる取り組みを行っていきます。

*モビリティマネジメント…渋滞や環境、個人の健康などの問題に配慮して、過度に自動車に頼る状態から公共交通や自転車などをかきこく使う方向へと自発的に転換することを促す、一般の人々やさまざまな組織・地域を対象とするコミュニケーションを中心とした持続的な取り組みの事です。

<事業主体>

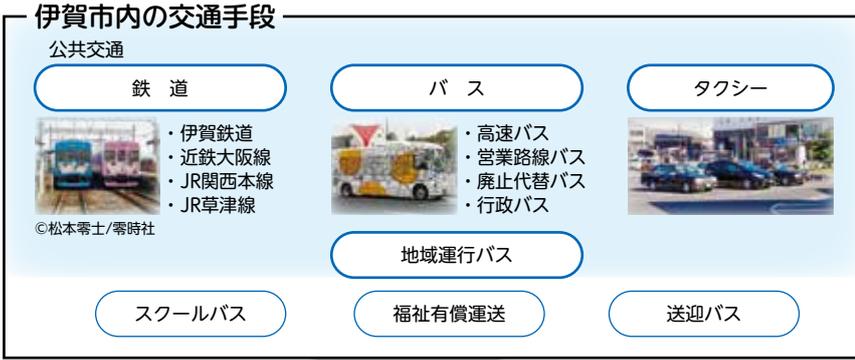
市民・地域	伊賀市	鉄道事業者	バス事業者	タクシー事業者	企業等関係団体
○	○	○	○		○



◆さまざまな移動手段を総動員

市内には、伊賀鉄道、近鉄大阪線、JR関西本線・草津線などの鉄道、三重交通の路線バス、行政バスや地域運行バス、タクシーなどの公共交通があります。そのほか、スクールバスや福祉有償運送、各施設の送迎バスなど公共交通を補完する移動手段もあります。

これらの交通手段を総動員し、市民や来訪者の移動手段を確保します。



交通手段を総動員し、市民や来訪者の移動手段を確保

市内の公共交通の中心となる伊賀鉄道(株)と三重交通(株)の担当者のメッセージです。二人は計画策定のための協議会の委員でもあります。



三重交通(株)
伊賀営業所長
川端 邦裕さん

現在の路線バスは、昔に比べて車内の段差が減り、安全装置も改良されています。交通系ICカードも利用でき、今年4月からは伊賀地域の路線にバスの現在地がわかる「バスロケーションシステム」を導入しました。また、伊賀管内のすべての車両に「抗菌・抗ウイルス加工」を施工済みです。これからも安心してご利用いただけるよう安全運行につとめていきます。



バス

鉄道



伊賀鉄道(株)
鉄道営業部長
藤巻 恵さん

市民の皆さんや、観光や仕事で伊賀市を訪れる皆さんに選んでいただける交通手段となるよう、伊賀線の安全・安心な輸送の確保とサービスの向上に努めています。輸送人員は年々減少し、運営赤字も拡大しています。コロナ禍での状況改善は容易ではありませんが、幅広い皆さんの応援を糧に、これからも頑張っていきます。

◆計画案への

パブリックコメントを募集

現在、計画案に対する意見を募集しています。この特集に記載した内容のほか、数値目標や事業内容は、市ホームページや閲覧場所にある冊子をご覧ください。

計画案では、もし伊賀鉄道とバスが無くなってしまったとき、医療や福祉、教育の分野で代替する施策を実施する場合、費用はどれだけかかるのか、現状の公共交通に関する財政支出と比較した「クロスセクター効果」を算出し、記載しています。

【閲覧場所】

- 交通政策課
- 各支所振興課
- 各地区市民センター
- 市ホームページ

【募集期限】

12月25日(金) ※必着

【提出方法】

住所・氏名・電話番号・件名(地域公共交通計画中間案・該当箇所とそれに対する意見を明記の上、提出先まで。

持参の場合、各支所振興課でも受け付けます。

【提出先・問い合わせ】

交通政策課

☎ 22・9663 FAX 22・9694

✉ koutsuu@city.iga.lg.jp

